

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 国際園芸アカデミー運営機能強化推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111 (内 2865)

E-mail: c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,220 千円 (前年度予算額：16,638 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	16,638	0	0	0	0	0	0	0	16,638
要求額	8,220	0	0	0	0	0	0	0	8,220
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ 農業大学校、国際園芸アカデミー及び森林文化アカデミー3校の更なる運営向上を図ることを目的とし、農林系アカデミー・農業大学校運営向上プランを平成31年3月に策定。
- ・ 運営向上プランで示された課題を解決すべく、「学校の魅力発信 (入口対策)」、「社会の変化に対応した学校づくり (教育内容の充実)」、「就職・就農支援の強化 (出口対策)」を柱に取り組みを推進し、機動的に対応できる教育機関となることを目指す。

(2) 事業内容

ア) 学校の魅力発信

- ・ 最新技術習得による指導力の向上と人的ネットワークの構築を図るための企業派遣研修の実施

イ) 社会の変化に対応した学校づくり

- ・ 教員の技術・技能・指導力などの研修受講
- ・ 産官学連携体制を構築し、施設整備等、教育ニーズを的確にとらえた

教育実施

- ・海外の園芸協会等民間団体との人材育成面での連携推進

ウ) 就職・就農の強化

- ・生徒と企業とのマッチングの機会拡充及び企業との連携推進

(3) 県負担・補助率の考え方

県立学校に関わる事項であり、県が負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	160	受入れ企業への報償費等
旅費	1,431	業務旅費、費用弁償
需用費	1,414	県産花き
役務費	40	通信運搬費
委託料	1,045	海外の園芸協会等連携先調査、機能移転調査業務
使用料	42	携帯電話・データ通信機器レンタル
負担金	288	指導者研修会参加負担金
工事請負費	3,800	温室施設の改修（ドライミスト導入）
合計	8,220	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ぎふ農業・農村基本計画（平成28～32年度）
- ・清流の国ぎふ花き振興計画（平成28～32年度）
- ・農林系アカデミー・農業大学校運営向上プラン（平成31～令和5年度）
- ・岐阜県都市公園活性化懇談会

(2) 国・他県の状況

県立の園芸系の学校で、兵庫県立淡路景観園芸学校（兵庫県淡路市）がある。

(3) 後年度の財政負担

必要経費に関して、県が継続して財政負担する。

(4) 事業主体及びその妥当性

県が運営する学校であることから、事業主体が県であることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・国際園芸アカデミーの運営機能を強化し、学校の魅力度向上を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
担い手数育成数 （H28-32年度累計）	330人 （H27）	487人 （H29）	1,033人 （H30）	1,506人 （R1）	2,000人 （R3）	75.3%
うち新規就農者数 （H28-32年度累計）	94人 （H27）	110人 （H29）	202人 （H30）	295人 （R1）	600人 （R3）	49.2%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- 園芸アカデミーの魅力向上のため、教員の指導力・資質向上研修を実施するとともに、関連企業における短期研修も実施。

（前年度の成果）

基本コンセプト・教育方針を明確にするための国際園芸アカデミー基本構想策定に向け骨子案を作成。

教員研修により、幅広い知識や技術の習得及び花き業界の現状を確認し、カリキュラムの内容改善に向け教員の意識を高めた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	国民の花き購入額及び生産額が低迷する状況において、質の高い花き園芸職人を育成・輩出するために取り組む当事業の必要性は極めて高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	業界のニーズに応えられる担い手の育成ができるよう教員の意識を高めることが出来た。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	アカデミーの教員の理解により円滑に各教員の研修を行うことが出来た。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・学生が真剣に学べる環境づくりに努めなければならないという観点から、教員の指導力の底上げや、国際競争力に打ち勝つ人材の育成のための環境整備など、教育レベルを確実にあげることが急務である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・花き生産、花き装飾、造園緑化を横断的に学べる全国で唯一の学校であり、鉢物生産量全国3位の当県において、レベルの高い花き園芸教育を受けることができる国際園芸アカデミーのニーズは極めて高いことから、学校の運営力を高めるため、令和3年度も事業を継続する。

他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	